

海山交流が生み出すかあちゃんパワー

団体名 益田市漁協婦人部連絡協議会

副会長 渋谷 十 茂 子

1. 地域の概況

私達の住んでいる益田市は島根県の西端に位置し、北は日本海、東は三隅町、西は山口県に接しており、人口51,049人（平成11年6月末）の街である。平成5年には県内で第3番目の空港である石見空港が開港した。

2. 漁業の概況

益田市の漁業の状況は、まき網を中心に定置網・刺網・船引き網・一本釣り・採貝藻等多種多様である。その中でも、私の所属する大浜地区は益田管内では一番の水揚げを誇り、小・中まき網漁業が主体となっている。

益田市漁協は、昭和37年3月市内7漁協の合併により発足した。現在、正組合員数260名、准組合員数595名の合計855名で構成され、平成10年度の水揚げ量は1,580トン、6億8千万円である。

3. 研究グループの組織と運営

益田市漁協には、飯浦婦人部（昭和32年6月設立 部員数70人）、小浜婦人部（昭和38年8月設立 部員数19人）、そして、私が所属している大浜婦人部（昭和30年12月設立 部員数50人）と三つの婦人部があり、漁家の主婦で構成されている。

益田市漁協婦人部連絡協議会は、これらの三つの婦人部が組織力を高めるために平成8年4月に結束し設立したものである。平成11年7月には、長年にわたる活動が評価され、全漁連会長より表彰を受けた。

4. 研究・実践活動課題選定の動機

婦人部員も漁業者と同様に高齢化が進行し、活動は年々難しくなっているが、何とかグループの活動を活発にするための方法はないかと役員が集まり、知恵を出し合った。

その結果、一つめに魚を食材として消費者が身近に感じるためには何ができるか、二つめに海の食文化をPRする方法にはどのようなものがあるか、三つめに漁村がもつ高齢化や後継者不足などの課題解決をするために担い手女性はどんな役割を果たすべきか等の課題が上がった。そしてこれらの実践手段として魚食普及や海山交流などの活動へとつながっていった。

5. 研究・実践活動の状況及び成果（波及効果）

(1) 魚食普及PRビデオの製作

今の若い世代の人たちに魚を捌く技術や料理方法を知ってもらうために、魚食普及PRビデオ「魚の捌き方と簡単な料理」を制作した。ビデオは毎年行われる「魚まつり」で放

映するなど、様々な場面で活用されている。

(2) 海山交流会

「海山交流会」と称し、益田圏域の農山村の女性グループとの交流会をしている。

私達海側の者は魚の捌き方から始まり、海の幸をふんだんに使った自慢の料理を披露し、一方、農山村の方達は自分達が栽培した農産物を使った料理の仕方を教えてくれる。また、自分達の趣味の披露をしたり意見や情報を交換したり、最近では環境問題についての話題にも触れている。海と山との交流により、高齢化の中でも知恵と工夫と協力により生き生きと暮らしていくことの大切さ、農山漁村のすばらしい自然や文化を次世代へ受け継いでいく使命について共通の意識が生まれてきている。

(3) 海と山とで取り組む環境問題

あるフォーラムで、川の上流に住む方の意見で、大雨になると河川敷きのゴミが流れて大変きれいになったという意見があり、私は大きな怒りを覚えた。

そのゴミは私達の生活の糧でもある海に流れ、魚網に掛かったり、浜辺に流れついたりして私達は大変な被害を受けているのである。

そこで、このことを海山交流会を通して山の人たちに伝え、私たちの苦勞を理解してもらっている。その結果、川の上流に住む者と下流に住む者とお互いの立場を理解し合い、環境問題に対する認識が一つになった。これは交流会のときだけに限らず、参加者がそれぞれの地域に帰ってからも、地域全体での環境保全への取り組みにつながってほしいと願っている。

(4) 益田魚まつり

魚食普及活動の一環として昭和59年から「益田魚まつり」へ参加し、簡単な魚料理の実演・試食・販売等を行っており、昨年で15回目となった。毎年作っていた「いかめし」、「さざえめし」、「穴子の天ぷら」、「アジの南蛮漬け」、「骨せんべい」といった料理は、回を重ねるごとに味も良くなり、私たち婦人部の得意料理となり、好評を得ている。

(5) 地元大浜地区の活性化のために

私のいる大浜地区でも高齢化が進み、地域の催し物も年々寂れて来ているが、これではいけないと一昨年より商工会が中心となって起こした花火大会に、大浜婦人部として参加し、トコロテンの実演販売などを行った。

普段は人口450人位しかいないひっそりとした町であるが、この日は3,500人を下らない大賑わいで、トコロテンは売れに売れた。久しぶりに婦人部の仲間が元気を取り戻し、輝いた一日であった。

6. 今後の課題や計画と問題点

(1) 環境問題

合成洗剤の追放を訴え続けて随分になるが一向に減少する気配がなく、つつい目先のきれいさから合成洗剤に傾いてしまいがちである。このため、今後も根強い啓発活動が続けていくことが必要である。

また、海山交流会が近隣の市町村を一巡したら、漁協や市町村関係者と連携をとり、農村部に植樹運動を展開し、より潤いのある地域づくりを目指していきたいと考えている。

(2) 高齢化問題

急速に進む高齢化社会において、私たち婦人部でもボランティアで弁当やおやつを作り、独居老人宅へ配達したり、また姿が見えないと訪問するなど常に気配りに心掛けている。

このような活動も一助となり、平成12年には地区にデイサービスセンターが完成するので、婦人部としても今以上に力を入れ、海ならではの新鮮な材料とアイデアを駆使した配食サービス等、ボランティアで協力していきたいと思っている。

(3) カーチャンパワーをもっと多くの婦人部員に！

婦人部活動に出るのはいつも役員ばかりであるが、参加のしにくい職を持った部員にも今後は5回に1回の割合でもいいから交流会や研修会に出てもらい、より多くの人にかあちゃんパワーを伝授したいと思っている。